様式２－１

沖縄国際大学　2023年度 ＦＤ支援プログラム成果報告書

下記内容により、ＦＤ支援プログラムの取り組みが完了いたしましたので、「ＦＤ支援プログラム成果報告書」にて、ご報告いたします。

報告者氏名	藤波　潔　印	所属・職名	総合文化学部・教授
プログラム名称	高等学校における「総合的な探究の時間」の実態調査－入学前教育・初年次教育の再考に向けて－		
実施及び成果の要旨	沖縄県内の公私立高校 67 校を対象として、「総合的な探究の時間」に関する実態長を実施した。回答のあった 39 校の回答内容を分析した結果。①テーマとしては進路・キャリアや地域理解に関するものが多い、②担当者は進路部や教務部の所属教員が担当している高校が多い、③取り組み時間の少なさを困りごとと感じている高校が多い、等の実態があきらかとなった。加えて、「総合的な探究の時間」を介した大学との多様な連携を求める意見も多数寄せられた。 なお、詳細は別添の報告書を参照していただきたい。		
実施期間	自：　2023　年　5　月　29　日 至：　2024　年　3　月　28　日		

※共同実施者（2 人以上の場合は、別紙添付のこと）

申請者氏名	島袋　伊津子　印	所属・職名	経済学部・教授
申請者氏名	喜世川　悠　印	所属・職名	入試センター・係長（当時）

目　　的	県内の主要高等学校を対象として「総合的な探求の時間」の実態を調査し、本学の入学前教育・初年次教育の再考に資するデータを提供すること。
活　動　内　容	①　沖縄県内の高等学校を対象とした「総合的な探究の時間」の実態に関する質問紙調査の実施 ②　沖縄県外における「総合的な探究の時間」の先進取り組み事例の視察調査の実施
成果･結果･効果	アンケート結果の詳細な分析や視察調査の概要等については、別添の報告書を参照していただきたい。
今　後　の　展　望	当プロジェクトとして、以下の諸点を提言した。 １．沖縄県内における「総合的な探究の時間」の実施実態を前提として、大学としての協力のあり方を検討すべきである。とくに、「大学入門講座」に教員向け研修に利用可能な講座、高校からの要請に基づいて臨機応変に講師派遣を臨機応変に対応する仕組みづくり、を早急に実施すべきである。 ２．大学の地域連携のあり方として、高校との連携プログラムを実施し、高校に周知すべきである。とくに、「総合的な探究の時間」のプログラム作成等のアドバイジング事業、メンターとしての学生派遣事業等は喫緊の課題だと考える。 ３．「総合的な探究の時間」の学習成果を、入学者選抜に活用する方策を検討すべきである。例えば、学校推薦型選抜において、「総合的な探究の時間」の学習成果を披露し、本学での学びとの接続、将来の進路希望などを確認するような定員枠を設定するといったことが考えられる。 ４．沖縄県における「総合的な探究の時間」の取り組み実態を学内に広く周知したうえで、とくに初年次ゼミにおける内容の検討を、各学科に呼びかけるべきである。

2023 年度
沖縄国際大学FD支援プログラム公募プロジェクト

高等学校における「総合的な探究の時間」の実態調査
ー入学前教育・初年次教育の再考に向けてー
成果報告書

2024 年 4 月 24 日

申請代表者　藤波　潔
共同申請者　島袋 伊津子・喜世川 悠

第１章　本プロジェクトの概要

第１節　申請内容

１．プログラム名称

高等学校における「総合的な探究の時間」の実態調査－入学前教育・初年次教育の再考に向けて－

２．活動目的

高等学校で2022年度から実施された学習指導要領に開設された「総合的な探求の時間」は、「探究の見方・考え方を働かせ，横断的・総合的な学習を行うことを通して，自己の在り方生き方を考えながら，よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成」することがめざされ、自ら問いを立て、資料に基づき検討し、検討結果をまとめ、発信することが必要となっている。

こうした学習手法は、従来、大学の初年次教育で実施されてきたものだが、この手法を習得した新入生が入学すれば、入学前教育や初年次教育の内容自体を見直す必要があり、初年次教育学会等でも、その必要性について議論がされている。

県外では、高大接続に基づき、大学と連携する形で「総合的な探求の時間」を展開している先進的な高等学校がある一方で、本学の入学生のほとんどを占める県内の高等学校でどのような内容で実施されているのかは不明である。そこで、本プログラムでは、県内の主要高等学校を対象として「総合的な探求の時間」の実態を調査し、本学の入学前教育・初年次教育の再考に資するデータを提供することを目的とする。

３．活動計画・方法

本プログラムは、①県内の主要高等学校に対するアンケート調査、②アンケート対象校から抽出した高等学校に対するインタビュー調査、および③県外の先進事例の視察調査、によって活動する予定である。

年間の活動計画の概要は下記のとおりである。

2023年	4～ 5月	アンケート調査の作成
	6～ 7月	アンケート調査の実施
	8～ 9月	先進事例の調査、初年次教育学会への参加
	10～12月	アンケート調査の分析
2024年	1～ 2月	先進事例の視察、報告書案作成
	3月	報告書作成

４．この活動により見込まれる効果

新学習指導要領によって学んだ高校生が大学に入学するのが2025年4月であることから、2024年度には入学前教育・初年次教育の再検討が必要になることが想定されるが、本プログラムの調査結果が、その再検討に有益な情報となることが想定される。

５．申請者（所属・職名は申請時点）

代表　　藤波　　潔（総合文化学部教授）

共同申請者　島袋伊津子（経済学部教授）
喜世川　悠（入試センター係長）

6．申請経費内訳

費　目	申請額（千円）	算定基礎（使途および各単価と数量を記入のこと）	備　考
調査依頼文書郵送費	2	@94 円×15 校	
消耗品	8	調査依頼文書郵送用封筒、調査用紙、他	
旅費交通費①	120	（往復航空運賃等　40,000 円 宿泊費　20,000 円）×2 名分	先進事例視察調査
旅費交通費②	70	（往復航空運賃等　50,000 円 宿泊費　20,000 円）×1名分	初年次教育学会参加
合　計	200		

第２節　活動実績

1．ミーティング（2023 年 5 月 29 日　10 時 40 分～12 時 10 分　本館 1 階小会議室）

⑴　調査対象校の検討

⑵　調査方法及び日程の検討

⑶　質問内容の検討

⑷　その他

※　以降、必要に応じてメールでやり取りした

2．アンケート調査（後掲）

3．視察調査

（1）視察先　大分県立中津南高等学校

（2）参加者　藤波委員

（3）視察日　2024 年 2 月 7 日（水）

第２章　アンケート調査

第１節　調査概要

１．調査名称

「高等学校における「総合的な探究の時間」の実態調査」

２．調査対象校

沖縄県内の公立・私立高校　67 校

３．調査期間

2023 年 6 月 14 日～7 月 31 日

４．回答数

39 校（回答率　58.2%）

５．送付文書（次頁）

６．回答結果の集計（本報告書の巻末に掲載）

① 鑑文

２０２３（令和５）年６月１４日

沖縄県内高等学校
「総合的な探究の時間」実施責任者　各位

沖縄国際大学総合文化学部
教授　藤波　　潔

「高等学校における「総合的な探究の時間」の実態調査」へのご協力について（お願い）

謹啓　梅雨の候、貴職におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は本学に対し、格段のご理解と御協力を賜り深く御礼申し上げます。

さて、本学では「教育の質の向上につながる」活動を支援する取り組みとして「ＦＤ支援プログラム」が実施されており、当職を責任者とする「高等学校における「総合的な探究の時間」の実態調査」と題したプログラムが採択されました。本プログラムは、昨年度から実施されている現行学習指導要領で導入された「総合的な探究の時間」が、大学における初年次教育や入学前教育のあり方を一変させる可能性があるものと想定し、本学における教育内容を検討するためにも、高等学校における「総合的な探究の時間」の実態把握が必要であるとの課題意識から、沖縄県内の高等学校を対象として実態調査をおこない、その結果を分析することを目的としております。

つきましては、貴校において実施されている「総合的な探究の時間」の概要について、別紙質問紙へのご回答をお願いしたと存じます。学事ご多用のところこうしたお願いを差し上げることは大変申し訳ないと存じますが、格段のご配慮を賜り、回答に御協力下さいますようお願い申し上げます。

謹白

記

１．回答方法
　別紙質問紙にご回答をご記入いただいたうえで、下記番号に当ててＦＡＸでご回答ください。
２．回答者
　貴校第１学年および第２学年において、「総合的な探究の時間」の実施責任者の方にお願いいたします。
３．回答期限
　２０２３（令和５）年７月３１日（土）迄にお願いいたします。
４．その他
（１）ご回答いただいた用紙については、本プログラム終了後に裁断処理いたします。
（２）ご回答いただいた内容については、本プログラムの目的にのみ利用いたします。なお、実態調査の集計結果については、学校名を匿名にしたうえで学内報告資料、および関係学会での報告資料や論文等で活用致します。
（３）ご回答の内容について、後日ご質問をさせていただく場合があります。
（４）ご不明な点やご質問等がございましたら、下記のプログラム代表者までご連絡ください。

以上

【本件に関する照会先】
プログラム責任者　藤波　　潔（総合文化学部教授）　fujinami@okiu.ac.jp
プログラム構成員　島袋伊津子（経済学部教授）　ituko@okiu.ac.jp

② 督促文

２０２３（令和５）年７月２１日

沖縄県内高等学校
「総合的な探究の時間」実施責任者　各位

沖縄国際大学総合文化学部
教授　藤波　　潔

「高等学校における「総合的な探究の時間」の実態調査」に対する回答ご提出のお願い

謹啓　炎暑の候、貴職におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は本学に対し、格段のご理解と御協力を賜り深く御礼申し上げます。

さて、**去る６月 14 日付で「「高等学校における「総合的な探究の時間」の実態調査」へのご協力について（お願い）」と題した文書を送付**させていただきました。本調査は、「総合的な探究の時間」が、大学における初年次教育や入学前教育のあり方を一変させる可能性があるとの前提のもと、高等学校における「総合的な探究の時間」の実態把握が必要であるとの課題意識から、沖縄県内の高等学校を対象として実施しているものです。

本調査の回答期限は７月 31 日に設定しております。すでに多くの高等学校から回答をいただいておりますが、より詳細な実態把握のためにも、多くの高等学校からの回答をお願いしたいと考えております。前回送付させていただいた文書に記載いたしました諸項目を、改めて下記に記載させていただきます。

つきましては、学事ご多用のところ大変申し訳ございませんが、上述の趣旨にご理解賜り、回答に御協力下さいますようお願い申し上げます。

謹白

記

１．回答方法
　別紙質問紙にご回答をご記入いただいたうえで、ＦＡＸでご回答ください。

２．回答者
　貴校第１学年および第２学年において、「総合的な探究の時間」の実施責任者の方にお願いいたします。

３．回答期限
　２０２３（令和５）年７月３１日（土）迄にお願いいたします。

４．その他
（１）ご回答いただいた用紙については、本プログラム終了後に裁断処理いたします。
（２）ご回答いただいた内容については、本プログラムの目的にのみ利用いたします。なお、実態調査の集計結果については、学校名を匿名にしたうえで学内報告資料、および関係学会での報告資料や論文等で活用致します。
（３）ご回答の内容について、後日ご質問をさせていただく場合があります。
（４）ご不明な点やご質問等がございましたら、下記のプログラム代表者までご連絡ください。

以上

【本件に関する照会先】
プログラム責任者　藤波　　潔（総合文化学部教授）　fujinami@okiu.ac.jp
プログラム構成員　島袋伊津子（経済学部教授）　ituko@okiu.ac.jp

③　質問紙（表面）

【本調査の回答先】０９８－８９３－３２７１
沖縄国際大学入試センター（担当：喜世川）

沖縄県内の高等学校における「総合的な探究の時間」実態調査

問１　回答者が所属されている学校名をお答えください。

高等学校

問２　回答者が「総合的な探究の時間」を担当されている学年をお答えください。（どちらかに✓をつけてください）

□　１学年　　□　２学年

問３　回答者がご担当されている学年における「総合的な探究の時間」のテーマをお答えください。

問４　回答者がご担当されている学年における「総合的な探究の時間」の年間計画の概要をお答えください。

月	内容	月	内容
4		10	
5		11	
6		12	
7		1	
8		2	
9		3	

問５　回答者がご担当されている学年における「総合的な探究の時間」の実施にあたって、外部の個人・機関との連携の有無についてお答えください。（どちらかに✓をつけてください）

□　連携している（差し支えなければ連携先をお答えください）
〔連携先：　　〕

□　連携していない

【設問は次頁に続きます】

④　質問紙（裏面）

問６　「総合的な探究の時間」の実施において、御校（または学年）として期待されている成果をお答えください。

問７　「総合的な探究の時間」を実施するうえで課題と感じられていることや困りごとをお答えください。

問８　「総合的な探究の時間」を実施するうえで、大学に期待されることやご要望があればお答えください。

問９　差し支えなければ、本アンケートに回答された方のお名前と役職（ご担当）をお答えください。（本件やご回答の内容について、確認させていただく場合があります）

お名前	
役職（ご担当）	

質問は以上です。御協力いただきありがとうございました。

第２節　調査結果の分析（１）

表１と図１はアンケート回答者の属性を示している。多くが公立高校の２年生、進路・キャリア教育や教育課程・総探担当である。

【表１】アンケート回答者属性概要

公私

公立高校	37
私立高校	2
合計	39

地区

離島	6
北部	3
中部	16
南部	6
那覇	8
合計	39

学科

実業	12
総合	1
普通	26
無回答	0
合計	39

学年　※同一高校でも別カウント

１年生	19
２年生	25
３年生	4
無回答	9
	57

【図１】アンケート回答者担当部署・役職

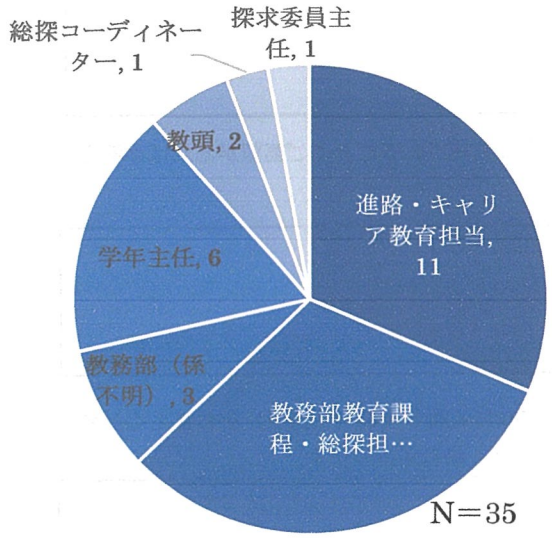


表２は「総合的な探求の時間」のテーマに対する回答である。進路・キャリア、職業・自己理解と地域・社会・興味探求が多数を占めることがわかる。

表２

「総合的な探究の時間」のテーマ	回答数
進路・キャリア、職業・自己理解関係	24
地域探求、社会課題探求、興味関心探求等	22
無回答	11

表３は、総探での外部連携の有無と提携先に対する回答である。教育機関、民間企業、公的機関など幅広い先が連携対象となっている。

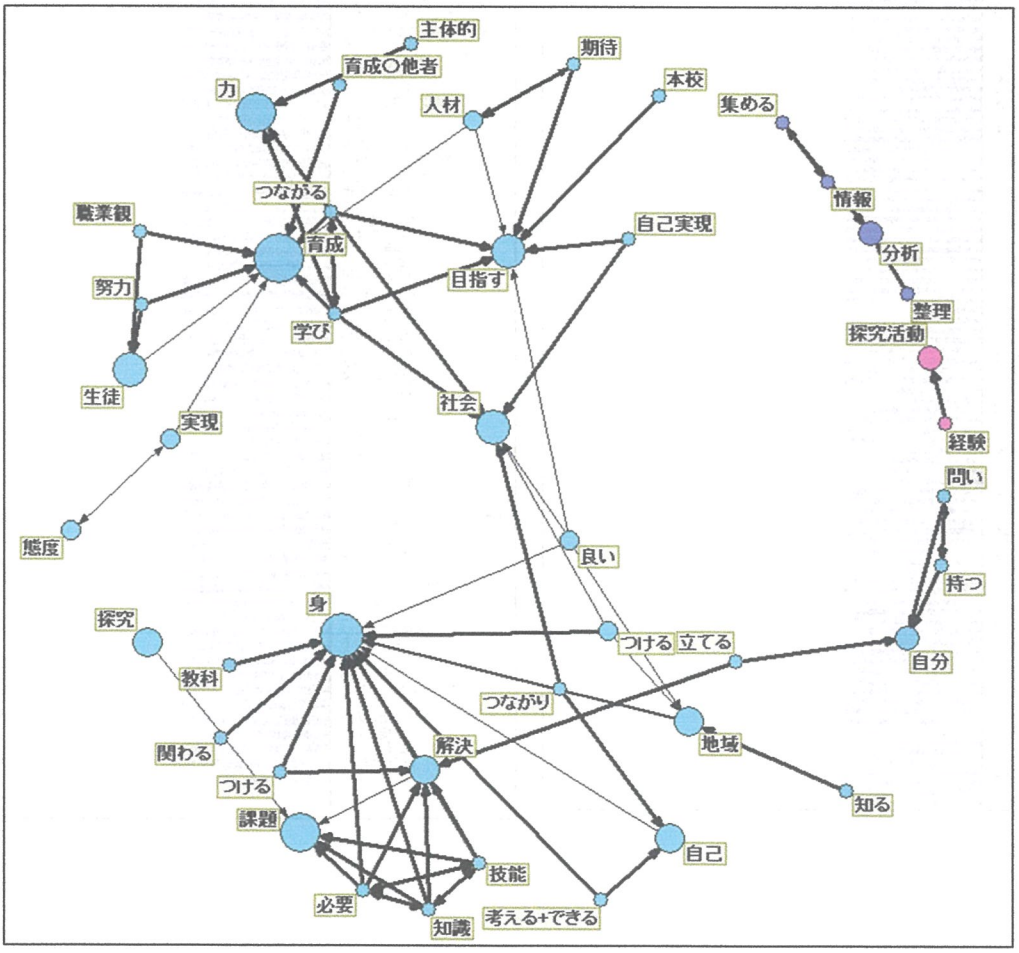
【表３】「総合的な探究の時間」での外部連携

総探における外部連携	回答数
あり	30
なし	13
無回答	13

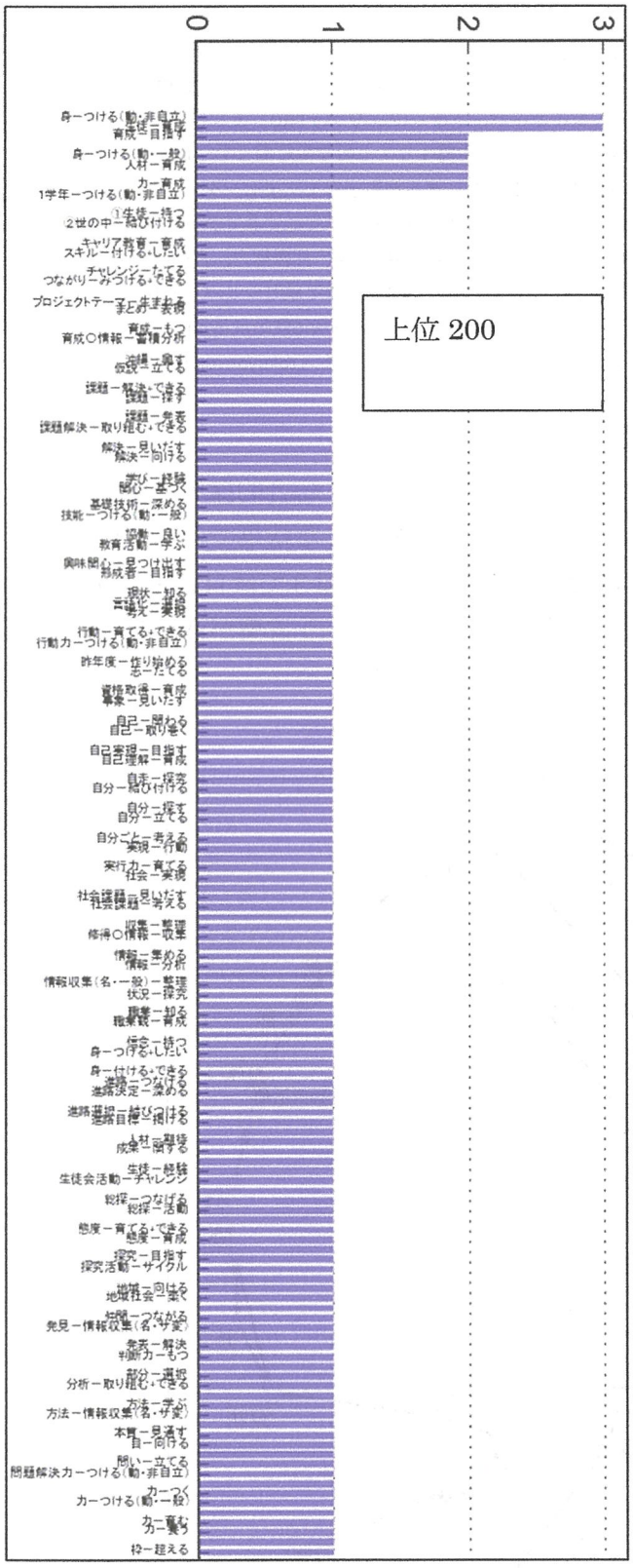
【提携先】
リクルートのスタディサプリ　久米島町企画財政課キャリアセンター、ケイオーパートナーズ、KBC学園、沖大講座、村内の方々、ほか　　琉球大学、OIST、その他民間企業ベネッセ　　ケイオーパートナーズ、ワカナPRO、大学連携マイナビENAGEED嘉手納町役場、沖縄大学、沖縄キリスト教学院短期大学、JICA、沖縄電力、自衛隊、米軍基地、道の駅かでな、嘉手納町子育て支援センター、嘉手納町シルバー支援センター、比謝川自然体験センター、学校給食共同調理場嘉手納町役場、沖縄大学、沖縄キリスト教学院短期大学、JICA、沖縄電力、自衛隊、米軍基地、道の駅かでな、嘉手納町子育て支援センター、嘉手納町シルバー支援センター、比謝川自然体験センター、学校給食共同調理場ENAGEED rokuyou　鹿島建設（キャリアリンク）、大学生など専門学校日経ビジネス rokuyou rokuyou

図２、図３は「総合的な探究の時間」での期待される成果、図４，５は、総合的探究の時間での困りごとについて自由記述の内容をテキストマイニングによって分析した結果である。図２では、課題、解決、社会、地域、自己・自分といった言葉が多くみられる。図３では自己・自分、課題、進路といった言葉が多くみられる。図４では、時間が足りないという言葉が多くみられた。

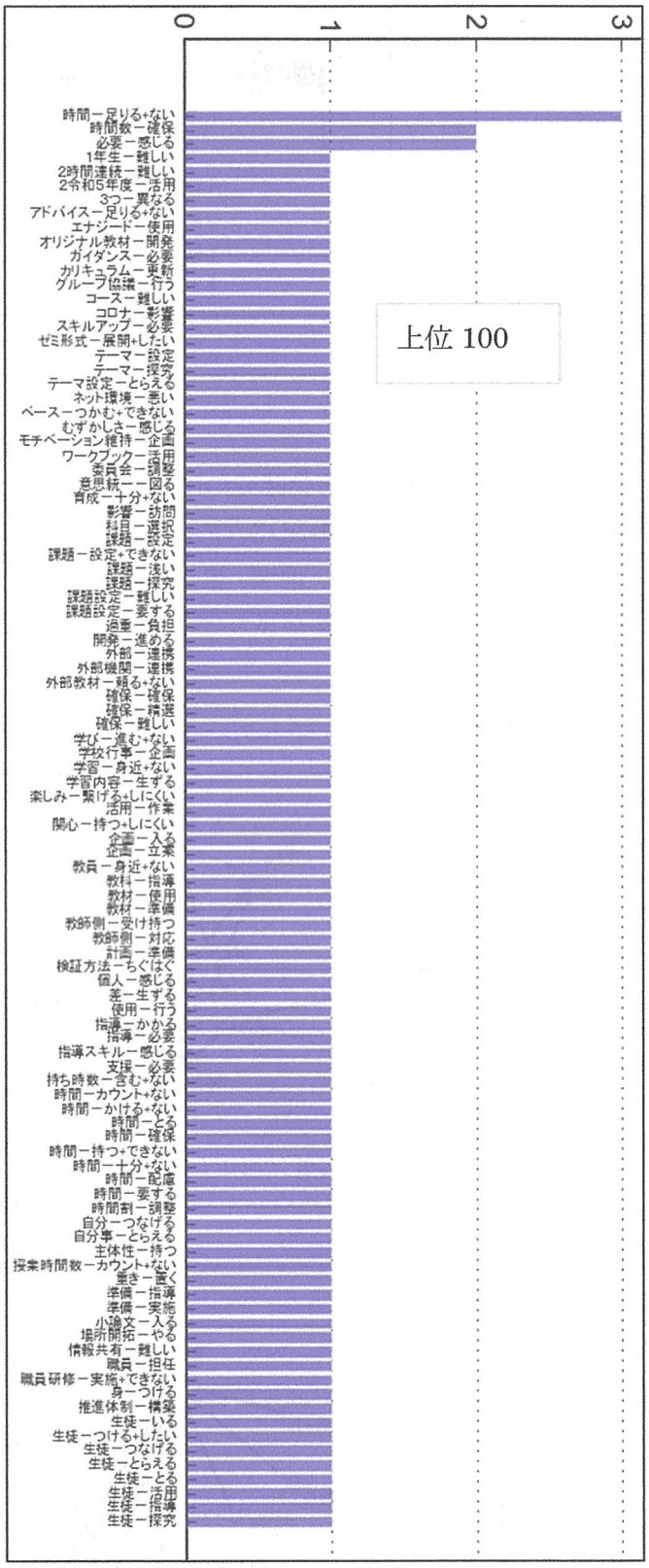
【図２】ことばネットワーク　成果



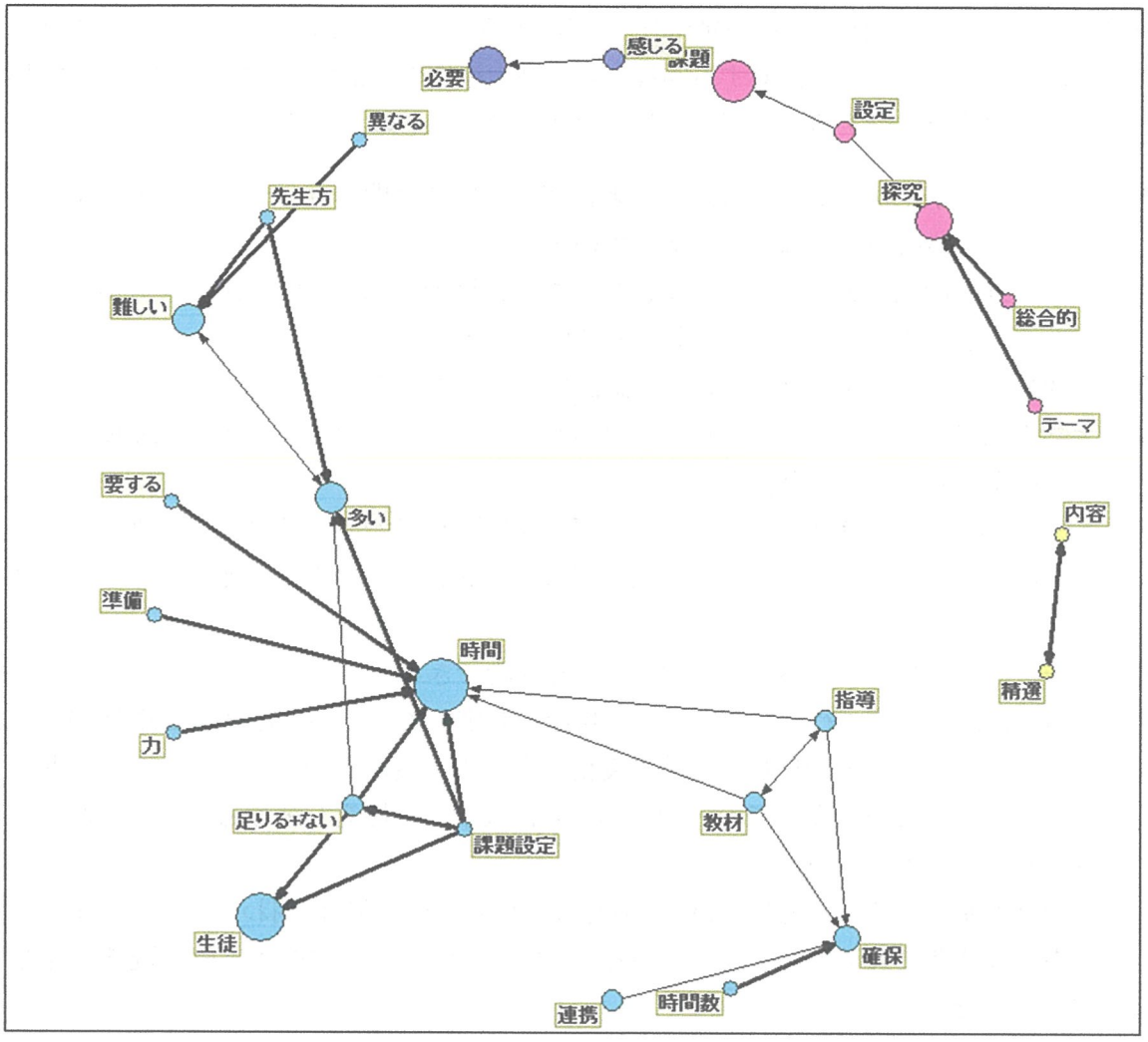
【図３】係受け頻度解析　成果



【図５】係受け頻度解析　困りごと



【図４】ことばネットワーク　困りごと



以上のアンケート調査の結果からわかったことは、総合的な探求の時間で、進路・キャリアや地域社会探求といったテーマで取り組む高校が多く、担当もそのようになっている。期待する成果が課題解決や自己、社会といった幅広いテーマであるが、そのような取り組みについて時間が足りない点に困りごとを抱えているということである。

第３節　調査結果の分析（２）

質問項目の問８「「総合的な探究の時間」を実施するうえで、大学にきたいされることやご要望があればお答えください」に対する回答から、高大連携の可能性や内容について分析する。

まず、主な回答を抜粋する（文章の一部を改変しているものがある）。

① 高校生、大学生がおこなっている課題探究を互いに質問し合ったり、アドバイスを行い合うような機会があればいいなあと思います。

② どの分野の探究活動をしてきたか、ではなく、探究活動をしたなかで自分がどう成長したか、など生徒の変化を入試で評価していただきたいです。

③ 探究のやり方や意義などについての講話をしていただく。

④ 大学入試で「探究」を大いに評価していただく仕組み、および、その入試制度について高校や中学へ周知すること。

⑤ 「総合的な探究の時間」で得た技能や知識、経験を、大学生がどのように生かし、発展させているのかを知りたい。また、大学ではその成長をどのように促しているかを知りたい。

⑥ オープンキャンパス以外で、大学の講義を受講できる。

⑦ 入試の段階で総探で行った内容を問う場面を設定してほしい（志望理由書や面接）。総探を通して学んだことや自身や地域の変化、大学入学後にどのように生かすか等聞いて頂けるとありがたい。高校での活動をベースに大学でも探究し続けられるようなカリキュラムを設定してほしい。

⑧ 大学との連携をぜひ実施したい。昨年度は、県外大学の学生に関わってもらいましたが、出来れば沖縄の大学生と連携したいと考えています。特に沖国大の（教員志望）学生と連携したいです。

⑨ 本土企業が提供するカリキュラムもあるが、沖縄の地域性、独自性が生かされるような探究プログラムがあるとうれしい（ガチガチの内容ではなく柔軟なやつ）。

⑩ 情報収集の方法（アンケート、インタビュー、観察、フィールドワーク含め）について、課題をどう設定するかなど、大学の先生に分かりやすくお話しして頂く機会を作りたい。

⑪ 学問探究を行う際に、大学の先生の出前講座などがあれば、生徒に学問探究に対する意識を更に持たせることができるのではないかと考える。

⑫ 社会課題に対する背景知識が乏しい生徒が多いので、出前講座などで課題設定に関する高校生向けの講座をして頂きたい。またデザイン発表や中間発表などでフィードバックを与えていただいたらありがたい。

⑬ 「総合的な探究の時間」の意義や、大学が求める探究の形態や内容等を学べる研修や、オンデマンドで学べる教材の提供していただきた（教員向け）。

以上のことから、高等学校における「総合的な探究の時間」への大学の協力のあり方について、次のような可能性が考えられる。

(1) 探究方法や活動に対する助言、発表会でのフィードバック等、「総合的な探究の時間」の学習活動に本学学生が関係すること。

(2) 「総合的な探究の時間」のプログラム開発、「総合的な探究の時間」のプログラム遂行に

関する教員研修、探究活動の方法や内容に関する講義等、本学教員が関係すること。

(3) 「総合的な探究の時間」の学習成果を、総合型選抜、学校推薦型選抜等、入学者選抜試験に活用すること。

これらの意見は、高等学校で「総合的な探究の時間」を担当している先生方の切実な意見であり、本学としても対応策を検討する必要があると考える。

第３章　先進校視察調査

第１節　視察概要

１．出張先

大分県立中津南高等学校

２．出張目的

大分県立中津南高等学校は、2023 年に創立 130 周年を迎えた大分県北地域の伝統校である。進学先は九州大学、福岡大学等の福岡地域の大学を中心に、主として九州地方、中国地方、関西地方に大学に多数の卒業生が進学しており、地域における進学校の役割を担っている。

このように、生徒の多くが県外大学を視野に入れている中で、同校では「SUSUME プロジェクト」と題した「総合的な探究の時間」を展開し、地域や地元企業の課題解決に取り組んでいる。これは、高校での学習内容が、地域のさまざまな現場や課題解決に直結することを実感させ、生徒の多様な価値観・人生観を養成したいとの考えから、プログラム内容が構築されたものである。

このプログラム構築を推進した同校の小池楠男校長の話を、2023 年 6 月に開催されたキャリア教育学会第 41 回研究セミナーで聴く機会があり、「総合的な探究の時間」の時間に対する思いに感銘を受け、セミナー終了後に連絡先を交換させていただいたことを契機として、同校の「SUSUME プロジェクト」の成果を実際に見学させていただくことを目的として、今回の視察を計画した。

３．出張日日程

2024 年 2 月 6 日～2 月 8 日　2 泊 3 日（SUSUME プロジェクト成果発表会は 2 月 7 日）

第２節　中津南高等学校「SUSUME プロジェクト」

１．年間計画

月	日	内容	月	日	内容
5	10	探究のすすめ①（探究の方法）講話	9	20	地域・企業の課題を考える③（課題設定）
	24	探究のすすめ②（探究の方法）実習		27	地域・企業の課題を考える④（調査研究１）
	31	探究のすすめ③（チームビルディング）班活動	10	11	地域・企業の課題を考える⑤（調査研究２）
6	7	探究のすすめ④（仮説の設定）班活動		18	地域・企業の課題を考える⑥（調査研究３）
	14	探究のすすめ⑤（調査研究）班活動		25	地域・企業の課題を考える⑦（調査研究４）
	21	探究のすすめ⑥（調査研究）班活動	11	1	地域・企業の課題を考える⑧（発表資料作成１）
7	5	探究のすすめ⑦（調査研究）班活動		8	地域・企業の課題を考える⑨（発表資料作成２）
	12	探究のすすめ⑧（ポスター作成）班活動		22	地域・企業の課題を考える⑩（企業見学）
	19	探究のすすめ⑧（ポスター作成）班活動	12	6	地域・企業の課題を考える⑪（調査研究５）

8	23	探究のすすめ⑨（振り返り）		20	地域・企業の課題を考える⑫（調査研究６）
	30	「地域・企業の課題を考える」②（講話）	1	17	地域・企業の課題を考える⑬（調査研究７）
				24	地域・企業の課題を考える⑭（発表資料作成）
				31	地域・企業の課題を考える⑮（発表資料作成）
			2	7	SUSUME プロジェクト成果発表会①
				28	SUSUME プロジェクト成果発表会②優秀班

2．「地域・企業の課題を考える」のテーマ

(1) 福祉　(2) 教育　(3) 生活　(4) 金融　(5) 国際
(6) 医療　(7) 土木・建築　(8) 流通・経済　(9) 観光

3．成果発表会の概要

(1) 1学年全生徒をクラス横断で、上記テーマに基づく3～4名のグループに編成する。
(2) 上記テーマに関連する役所、団体、企業からの課題提示、同所での調査等を実施し、中間発表で関係者からの助言を受けたうえで、成果発表に臨む。
(3) 報告は8分、質疑応答を4分とし、企業・団体等からのアドバイザーも参加して実施する。

4．発表テーマ例

○ 外国人の暮らしやすい町づくり（国際Ａ班）
○ 自然と歴史にタッチ－中津の魅力を体験－（観光Ｂ班）
○ 岡崎建具を救え！（流通・経済Ｄ班）
○ Buzzrhythm－SNS を通して医療の手助けをする－（医療Ｅ班）
○ 大分銀行で住宅ローン！返済も快適に！！（金融Ｆ班）

5．所感

本プロジェクトが実施した沖縄県内高校における「総合的な探究の時間」実態調査で明らかとなった通り、「総合的な探究の時間」が「進路探究」として扱われる事例も多い。とくに、いわゆる「進学実績」を向上させようとしている普通科高校において顕著である。

しかし、中津南高校の「SUSUME プロジェクト」は、単なる進路探究にとどまらない「キャリア形成」を自ら考える機会を提供する内容となっている点が特筆される。「地域で生きる大人たち」との接点をつくり、その大人たちが抱える課題を共有し、高校生の視点と高等学校での学修成果（例えば数学における統計、公民における経済、英語における国際理解等）を用いながら課題解決の方策を検討し、根拠に基づいて考え、その成果を、プレゼンテーション・ソフトを用いて発表するという内容となっている。こうした活動によって、たとえ一度県外に進学したとしても、生徒は将来的に地元で生きていくことを選択肢として持つことができ、自らの生き方や学ぶ目的を考えることに繋がっている。

中津南高校の「SUSUME プロジェクト」は、「進学型普通高校」における「総合的な探究の時間」のモデルとなり得るものだが、こうしたプログラムを運営する際に、大学が果たすべき役

割は多いと感じた。とくに、前期に実施している「探究のすすめ」に関して、中津南高校では教員用のマニュアルを作成して関係教員が共有して実施しているが、小池校長の話では、必ずしもすべての教員が円滑に指導できている訳ではないとのことだった。また、「調査研究」のパートにおいても、学生がメンターとして協力することは意味あることだと考える。

ただし、成果発表会での発表内容は、1年生ながら大変充実した内容のものが多かった。こうした経験を積んだ生徒が、近い将来、大学に入学することを考えれば、高校での「総合的な探究の時間」の学習成果を入学者選抜で適切に評価することや、初年次教育の内容を再検討することは不可欠だと感じた。

第４章　提言

2023 年度ＦＤ支援プログラム公募プロジェクトの報告書を取りまとめた結果として、以下の諸点を提言する。

１．沖縄県内における「総合的な探究の時間」の実施実態を前提として、大学としての協力のあり方を検討すべきである。とくに、「大学入門講座」に教員向け研修に利用可能な講座、高校からの要請に基づいて臨機応変に講師派遣を臨機応変に対応する仕組みづくり、を早急に実施すべきである。

２．大学の地域連携のあり方として、高校との連携プログラムを実施し、高校に周知すべきである。とくに、「総合的な探究の時間」のプログラム作成等のアドバイジング事業、メンターとしての学生派遣事業等は喫緊の課題だと考える。

３．「総合的な探究の時間」の学習成果を、入学者選抜に活用する方策を検討すべきである。例えば、学校推薦型選抜において、「総合的な探究の時間」の学習成果を披露し、本学での学びとの接続、将来の進路希望などを確認するような定員枠を設定するといったことが考えられる。

４．沖縄県における「総合的な探究の時間」の取り組み実態を学内に広く周知したうえで、とくに初年次ゼミにおける内容の検討を、各学科に呼びかけるべきである。

以上

No.	公私別	地区	学科	課題探究への代替	1	2	3	4	5		6	7	8	9	
					回答者が所属されている学校名をお答えください。	回答者が「総合的な探究の時間」を担当されている学年を答えください。	回答者がご担当されている学年における「総合的な探究の時間」のテーマをお答えください。	回答者がご担当されている学年における「総合的な探究の時間」の年間計画の概要をお答えください。	回答者がご担当されている学年における「総合的な探究の時間」の実施にあたって、外部の個人・機関との連携の有無についてお答えください。	連携先	「総合的な探究の時間」の実施において、御校（または学年）として期待されている成果をお答えください。	「総合的な探究の時間」を実施するうえで課題と感じられていることや困りごとをお答えください。	「総合的な探究の時間」を実施するうえで、大学に期待されることやご要望があればお答えください。	差し支えなければ、本アンケートに回答された方のお名前と役職（ご担当）をお答えください。	役職（ご担当）
1		離島	実業	○	ア									西銘　章	教務部
2	公	那覇	実業	○	イ									照屋　民子	教諭（教育課程）
3	公	南部	普通		ウ	1年	興味関心から探究する	4～6月　課題の設定 7～9月　情報の収集 10月　整理・分析 11月　まとめ・表現 12月　進路接続１ワーク 1月　先輩から学ぶ 2月　進路接続２ワーク 3月　探究スキルアップワーク	連携している	リクルートのスタディサプリ	本校が目指している7つの力がつくこと ①ことばの力　②想像力　③論理的判断力　④情報活用能力　⑤自己マネジメント力 ⑥課題発見・解決力　⑦創造力	時間数の確保	高校生、大学生がおこなっている課題探究を互いに質問し合ったり、アドバイスを行い合うような機会があればいいなあと思います	座安　理奈	SSH研究推進部（総合的な探究の時間）
						2年	課題を解決するための探究活動								
4	公	那覇	普通		エ	2年	キャリア教育の充実	4月　オリエンテーション、活動計画 5月　適性検査 6月　科目登録 7月　選択科目本登録 9月　アラカルトガイダンス 10～11月　インターシップ代替活動 12月　マナー講習 1月　進路ガイダンス、内定者講話 2月　県内外企業職業講話 3月　キャリアパスポートまとめ	連携している		キャリア教育、進路決定	総合的な探究、LHRの行事計画（内容）が多い。精選が必要。あれもこれもになっている。		池田　大受	2年次主任
5	公	離島	普通		オ	1年	職業教育	4月　平和新聞作成、進路調査 5月　平和新聞作成 6月　平和新聞作成、平和学習共有 7月　平和学習まとめ 9月　職業ガイダンス 10月　インターシップ事前準備 11月　インターシップ事前準備、マナー講座 12月　インターシップ事後学習 1月　インターシップ発表会 2月　最終発表、年間振り返り			地域の課題や状況を実際に体験、探究することによって課題発見、問題解決力を身につけ、将来地域のために自分ができることは何かを考え、進路選択に結びつける。	自らの課題として探究させるにはどうしたらいいのか。主体的に取り組ませるためのアプローチをどうするべきか。	どの分野の探究活動をしてきたか、ではなく、探究活動をしたなかで自分がどう成長したか、など生徒の変化を入試で評価していただきたいです。	与那城　美帆	教諭（総合的な探究の時間担当）

						2年	まちづくりプロジェクト	4月　総合探究ガイダンス 5月　久米島について学ぶ 6月　課題・テーマを考える 7月　研究計画書 9月　中間発表 10～11月　調査 12月　最終発表準備 1月　最終発表準備 2月　最終発表、年間振り返り	連携している	久米島町企画財政課					
6	公	離島	実業	○	カ									仲里　博恒	教諭（教務：教育課程担当）
7	公	離島	実業	○	キ									國吉　枝里子	教諭（教育課程係）
8	公	中部	普通		ク	1年	地域探究	4月　適性診断 5月　職業観 6～1月　地域探究、職業人講話 10月　フィールドワーク 11月　テーマ決め・情報収集 12月　中間発表 1月　まとめ・発表 2月　代表者発表 3月　進路講話	連携している	キャリアセンター、ケイオーパートナーズ、KBC学園、沖大講座、村内の方々、ほか	○自己、地域、職業を知る ○探究の方法を学ぶ	○校内のネット環境がとても悪い ○講師選定やフィールドワークの場所開拓など、やることが多い、不ア確定要素が多い ○担任、副担任の先生方との情報共有がとても難しい	探究のやり方や意義などについての講話をしていただく	長塚　民子	（総探係・就職係）教諭
						2年	小論文＋探究活動	4月　適性診断 5月　職業観 6～1月　地域探究、職業人講話 10月　フィールドワーク 11月　テーマ決め・情報収集 12月　中間発表 1月　まとめ・発表 2月　代表者発表 3月　進路講話							
9	公	離島	普通		ケ	1年	自分と身近な実社会や実生活との関わりを通して、自己の在り方・生き方について考え、自己理解を深める態度を身に付ける。		連携している		よりよい社会の形成者として、自己実現を目指す。	課題が何なのか？それがよくわからない。	何も無し。	箕田　成範	教務部キャリア教育担当
						2年	興味関心や進路に関連する探究活動を通して、主体性や協働性を高める。	4月　探究課題設定に向けた話合い、班決めに向けた情報交換会 5月　キャリア教育講演会 6月　選択科目説明会、進路ガイダンス 7月　探究計画・活動 8月　探究活動（各自） 9月　探究活動 10月　教育フォーラム、中間報告会 11月　探究活動 12月　総探発表会、振り返り 1月　沖縄未来社会創生シンポジウム（他者の探究発表に関心を持つ） 2月　報告書作成、キャリア教育出前授業 3月　年間総括、3年生が語る進路講話	連携している						

						3年	自己理解を深化させ、理想の将来像に近づくための実践的な探究活動を通して、よりよい社会の形成者となり得る具体的な進路の確立を図る。		連携している						
10	公	中部	理数、国際英語		コ	2年	国際性豊かで主体的な探究心と論理的思考力と表現力を身に付けた人材の育成	4月　テーマ検討 5月　発表会（テーマ検討） 6～9月　研究・調査 10月　中間発表会 11～１月　研究・調査 2月　最終発表会 3月　まとめ	連携している	琉球大学、OIST、その他民間企業	テーマとした人材が育成されていること	校内の推進体制の構築、教員の指導経験不足	大学入試で「探究」を大いに評価していただく仕組み、および、その入試制度について高校や中学へ周知すること。	中村　元紀	SSH研究開発部主任
11	公	中部	普通		サ	1年	地域社会の課題と自己の在り方生き方を関連づけ、進路における自己課題を発見し、進路実現に向けて必要な知識、技能を身につける。	4月　総合的な探究の時間の目標及び計画を知る。 5月　地域社会の課題を知る。 6月　社会と自己の関わりを知る。 7月　自己の考えを発表する（言語能力育成活動）。 8月　課題解決に向けた調査など 9月　探究計画報告会に向けて準備する。 10月　情報収集した結果をHRで発表する。 11月　主張を作って表現の構成を考える。 12月　中間発表（2年生へ）をする。 1月　アクションをする。 2月　学年発表会で発表をする。 3月　探究全体を振り返る。	連携している	ベネッセ	自己と自己を取り巻く地域の課題の発表と解決に必要な知識及び技能を身につける。	設定した課題が浅く、探究活動が自走しない。様々な課題に対する教師側の対応が困難。分野によってゼミ形式に展開したいが、教師側の受け持ち授業時間数に「総合的な探究の時間」がカウントされていないことで、実現へのハードルとなっている。	「総合的な探究の時間」で得た技能や知識、経験を、大学生がどのように生かし、発展させているのかを知りたい。また、大学ではその成長をどのように促しているかを知りたい。	徳本　真理子	進路指導部総合的な探究の係
12	公	離島	実業	○	シ									長間　邦和	教頭
13	公	南部	普通		ス	1年	自分磨き探究	5～7月　マインドマップ作成・発表 9月　課題設定、計画書作成 10～12月　情報収集 12～2月　発表準備 2月　発表	連携している		自分で問いを立てて、解決する力を養う。共にかかわる力、見つめなおす力、信念を持ってやりぬく力、ロングビジョン力を身につける。	問いを立てたものの、コロナの影響もあり、外部の団体（特に企業、大学など）、専門で行っているところに訪問したりして、質問ができない。	学内の講義を体験で1度だけ受講できる（オープンキャンパス以外で）	與那嶺　美幸	教諭（進路部　総探と看護系担当）
						2年	SDGｓ	6～7月　課題設定、計画書作成 9～10月　情報収集 11～12月　発表準備 1月　発表	連携している						

14	公	北部	普通		セ	2年	体験を通して職業を知り、地域と関わる	4月　探究のオリエンテーション、インターシップのオリエンテーション 5月　卒業生と語る会、インターシップの事業所決め 6月　インターシップの事業所研究、ビジネスマナー講座 7月　インターンシップ（3日間） 9月　インターンシップ振り返り、新聞づくり 10月　日本的な働き方、働かせ方/探究活動とは？（外部講師） 11月　テーマ設定 12月　情報収集 1月　整理分析、レポート作成レポート提出、3年生発表見学	連携している	ケイオーパートナーズ、ワカナPRO、大学連携	探究の見方、考え方を働かせ、先のことや物事の本質を見通す力を育み、社会と自己のつながりをみつけることができる。	生徒に社会的な課題（テーマ設定）を自分事としてとらえさせることにむずかしさを感じる。	探究力が身につくと、社会人としてどのように活躍できるのか、大学の講義の中でも具体的に示していただき、よりよい社会人になるよう育てて頂くことを期待します。	上原　結子	進路部（総合的な探究の時間、キャリア教育、インターンシップ）
15	公	南部	実業	○	ソ									仲里　正和	教務部教育課程係
16	公	北部	普通		タ	1年	地域探究	4月　オリエンテーション 5～10月　テキスト学習 10～11月　地域探究事前学習 11月　地域探究 11～12月　地域探究事後学習 12月　地域探究発表会 1月　2年次に向けて、探究活動模擬発表会 2月　先輩の探究を知ろう	連携していない		教育活動を通して、勤労観・職業観を学び、明確な進路目標を掲げ、日々努力する生徒を育成する。	生徒につけてほしい力はたくさんあるが、それを実践する絶対的な時間が足りない。	もし大学側が高校での総探の時間を入試の際に計りたい、もしくは大学入学後に高校での学びを活かした取り組みをするなら、それをカリキュラム、HP、パンフなどでしっかり明記してほしい。	仲間　貴之	進路部キャリア教育・探究担当
17	公	那覇	普通		チ	1年	地域探究	6月　オリエンテーション、探究ワーク 7月　探究ワーク、夏期探究について 8月　夏期探究 10月　探究ワーク、企業ワークショップ 11月　探究ワーク、発表準備 12月　クラス発表、（代表者）全体発表 1～3月　2年０学期　社会人講話、卒業生講話	連携している	マイナビ	身近な題材である「地域」に目を向け、威力や課題等の現状を知り、自己がどのように関わっていくのかを考えることができる。また、情報を集めて分析し、他者と協働してよりよい地域社会を築くためのスキルを身に付けて欲しい。	時間数の確保や教材の内容の精選、外部との連携、生徒と指導する職員（担任・副担任）のモチベーション維持、年間指導計画の企画・立案、学年会・委員会との調整。	入試の段階で総探で行った内容を問う場面を設定してほしい（志望理由書や面接）。総探を通して学んだことや自身や地域の変化、大学入学後にどのように生かすか等聞いて頂けるとありがたい。高校での活動をベースに大学でも探究し続けられるようなカリキュラムを設定してほしい。	新垣　早希子	進路部（総探担当）
18	公	南部	実業		ツ	2年	就業体験を通して、自己の特性と職業について、さらに自己の在り方、生き方について、考えながらキャリア形成を図ろうとする態度を身につける。	4月　インターンシップNAVI 5月　インターンシップオリエンテーション、マッチング 6月　自己紹介書作成 7月　インターンシップマナー講座、お礼状作成 9月　インターンシップ発表に向けて 10～１月　ENAGEED 2月　校内進路ガイダンス	連携している	ENAGEED	進路決定、自己理解を深める	グループ協議を行わせるための指導スキルについて（スキルアップの必要を感じる）。	生徒が視野を広げて課題を見つけて解決のために行動するモチベーションが高まることが期待される。	親泊　次子	教務　総合的な探究の時間担当

19	公	中部	総合		テ	2年	嘉手納町の課題を設定し、SDGｓに関連させて、課題解決に向けて取り組み、嘉手納町の魅力をアピールする。	4月　ガイダンス 6月　課題設定、発表準備 7月　発表会 10月　フィールドワーク 11月　発表準備 12月　発表会	連携している	嘉手納町役場、沖縄大学、沖縄キリスト教学院短期大学、JICA、沖縄電力、自衛隊、米軍基地、道の駅かでな、嘉手納町子育て支援センター、嘉手納町シルバー支援センター、比謝川自然体験センター、学校給食共同調理場	現代の諸課題に関わる探究の過程を通して、教科・科目の枠を超えた多様な視点で課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けることができる。	（１）課題設定に時間を要する生徒が多い （２）令和5年度よりワークブックを活用しているが、課題を設定できない生徒にとっては、単なる作業になっている。 （３）学年祭（KADENA祭り）や科目登録（総合学科なので、科目を選択するときに丁寧なガイダンスが必要）に時間がとられ、時間が足りない。	出前講座、上級学校訪問等の高大連携	石川　睦	総探コーディネーター
						3年	自己の系列、興味・関心に沿って、課題を設定し、課題解決を通して、自分自身の理想とするべき姿をアピールする。	5月　課題設定 6月　情報収集 7月　調べ学習、発表会 9～10月　研究論文作成 11月　発表スライド修正 12月　卒業研究発表会	連携している	嘉手納町役場、沖縄大学、沖縄キリスト教学院短期大学、JICA、沖縄電力、自衛隊、米軍基地、道の駅かでな、嘉手納町子育て支援センター、嘉手納町シルバー支援センター、比謝川自然体験センター、学校給食共同調理場	自己の新しい考えを実現するために行動し、次代を担い社会に貢献しようとする態度を育てることができる。				
20	公	中部	普通		ト	1年	自己理解	年間を通じたENAGEEDプログラム	連携している	ENAGEED	生徒の自己理解、職業観の育成、探究活動を通しての協働など	教材の準備や指導にかかる負担、職員研修の必要性および時間の確保、予算の確保や人的物的資源の確保など	出前講座を活用したいが、他行事との兼ね合いでなかなか案内できない。が、夏休みや春休みなどキャンパス内で体験（授業や実習）学習などがあると大変うれしいです。	宜保　昌子	教務部　総合的な探究の時間
						2年	自己の可能性を磨く	チーム活動、発表	連携している	rokuyou					
						3年	進路実現		連携していない						
21	私	那覇	普通		ナ	1年	①己を知り、他者を理解する　②身近な社会を変革する	4月　クラスの仲を深めるエンカウンター 5～6月　「人生曲線」を描こう 8～9月　社会を知る（新聞スクラップ作成） 10月　合意形成の方法を学ぶ 11～12月　クラス課題を解決する企画提案 1～3月　興南プチ×チェンプロジェクト（学校改革プランをグループで探究、管理職へプレゼン）	連携している		建学の精神である「南（沖縄）を興す人材の育成」を目的としています。探究活動を通して、社会の中で主体的に生き抜く力の育成を目指し、その学びの経験が生徒たちの自己実現へつながることを期	総合探究の立ち上げ期のため、なるべく外部教材に頼らず、オリジナル教材の開発を進めています。その分、負担は大きいですが、面白さもあります。興南高校は9クラス、3つの異なるコースがあるた	大学との連携をぜひ実施したい。昨年度は、慶應義塾の学生に関わってもらいましたが、出来れば沖縄の大学生と連携したいと考えています。特に沖国大の（教員志望）学生に「KTP」（興南探究プロ	門林　良和	進路指導部　総合探究担当

						2年	③興味・関心から世の中を探究する　④探究から自己実現へ	4～6月　未来の社会を考える探究プログラム（外部教材） 7～10月　KTP（興南探究プロジェクト）（個人探究） 11月　KTPアワード（No.1プレゼンター決定戦） 12月　学年企画、講演会 1～3月　KTP Next（探究から自己実現へ）	連携している	鹿島建設（キャリアリンク）、大学生など	自己実現へつながることを期待しています。	め、教員の目線合わせが少し難しいです。	ジェクト）の取り組みで連携したいです。		
22	公	中部	普通		ニ	1年	普天間から平和を発信する	4月　総探（探究活動とは） 5月　班決め 6月　問いのつくり方 7月　テーマ設定 8月　中間発表、フィールドワーク 9～11月　調査検証 12月　最終発表会 1～3月　進路探究	連携していない		○自ら考え、主体的に探究する力 ○課題を自ら発見する力 ○継続的に探究する力	○教員間の目線合わせ ○総探が持ち時数に含まれないため過重な負担に（やればやるほど）	本土企業が提供するカリキュラムもあるが、沖縄の地域性、独自性が生かされるような探究プログラムがあるとうれしい（ガチガチの内容ではなく柔軟なやつ）。	高良　由加里	教諭（キャリア、総探担当）
						2年	SDGｓで普天間を活性化させよう	4月　総探（探究活動とは） 5月　班決め、フィールドワーク 6月　問いのつくり方 7月　テーマ設定 8月　中間発表 9～11月　調査検証 12月　最終発表会 1～3月　進路探究	連携していない						
23	公	中部	普通		ヌ	2年	自己を見つめる課題を発見し、集団の中での個人の在り方や参加のしかたを身につける	4月　オリエンテーション、目標設定 5月　進路探究①、生徒総会 6月　石高祭に向けて① 7月　石高祭に向けて②、進路探究② 9月　石高祭の準備 10月　石高祭の準備、職業人講話 11月　企業訪問 12月　エコグラム、2学期の振り返り 1月　進路探究③、合格体験発表会 2月　1年間の振り返り	連携している	専門学校日経ビジネス	○自分の役割を考え、最後までやり通すことができる生徒の育成 ○他者を尊重し、より良き社会を築こうとする生徒の育成 ○確かな判断力をもち、自ら進んで行動する生徒の育成	自主性や積極性がやや弱い生徒がいるため、目標の達成にはゆとりある時間や細やかな配慮や支援が必要である。	進路探究について、現在専門学校と連携しているため、職業観については充実しているが、進学希望の生徒向けに大学の学問についても取り入れたい。	富田　あさひ	進路指導部（進学担当）
24	公	中部	普通		ネ	1年	校内の未活用資源を調査・活用方法を探究 チームオリジナルの探究テーマ	4月　テーマ設定 5～6月　活用方法の検討 7月　閲覧会、投票、表彰 9～10月　テーマ決定、仮説の設定 10～11月　アクション 12月　スライド作成 1月　最終発表会	連携している	rokuyou	①生徒が持つ興味関心と、“社会/世界に対する課題や問い”など、プロジェクトテーマが生まれるタネを自分の中から見つけ出す	①生徒が世の中と自分をつなげる事に関心を持ちづらい。 ②与えられることになれた生徒が、自身で探究することを喜びや楽しみに繋げづらい。 ③教諭側のコーチング力と総	①大学でさらに「探究活動」を深めたいと考えている学生へのカリキュラム	砂川　佳隆	教諭（学年主任・総合的な探究の時

24	公	中部	普通		ホ	2年	校内の未活用資源を調査・活用方法を探究 チームオリジナルの探究テーマ	4月　テーマ設定 5～6月　活用方法の検討 7月　閲覧会、投票、表彰 9～10月　テーマ決定、仮説の設定 10～11月　アクション 12月　スライド作成 1月　最終発表会	連携している	rokuyou	が見つけ出す。 ②世の中と自分を結び付け、言語化し、深めたい部分を自分で選択することで、自走する探究を目指す。	③教員間のコーディネイト力と総探に対する理解度（調べ学習と探究の意味など） ④担当の業務（ほぼ手探りの中で、カリキュラムは毎年更新している）　他	①外部ネットワーク ②大学と高校の連携（ゼミとの交流など）	砂川　匡隆	総合的な探究の時間）
25	公	那覇	普通		ノ	2年	自己の生活に即した課題を設定し、探究活動を行い、成果を他者へ伝える	4月　マイプロ1～3「探究とは」「テーマ探し」「チーム作り」 5月　マイプロ4　「情報収集、仮説立て」 6月　マイプロ5～8　「ミニ探究」設定、実施、報告 7月　マイプロ9、10　「アクション計画書の作成」 8月　夏の探究（自由プログラム参加） 10月　マイプロ11～14　「夏の振り返り」「発表に向けて」 11月　マイプロ15～18　「発表準備」「発表会」 1～3月　進路の取り組み	連携している	rokuyou	日常生活のなかで、自らの関心に基づいて、課題を発見し、さまざまな方法で情報収集し、集めた情報を分析して、課題解決に取り組むことができる。	○夏休みや学園祭、体育祭で探究活動が中断し、生徒の学びが進まない。 ○探究的な学習が、生徒や教員で身近でないため、自主的に進まない。	前任校で琉大が主催する探究学習会の発表の場があり、参加していた。発表の場の設置など希望する。	城間　篤	進路部（総探・キャリア担当）
26	私	中部	普通		ハ	1年	自分の興味・関心、社会の課題解決（個人で決めるテーマ）	4月　マイテーマ探し 5～7月　課題設定 7～9月　情報収集、高校生リング 10～2月　分析・整理、まとめ	連携していない	（リクルートの高校生Ringには参加）	自分の興味・関心を見つけ、社会課題を「自分ごと」として考えたりすることで、①学習や進路に対する目的意識を高め、②主体性や実行力を育てる。	課題設定が難しいし、情報収集の方法も、生徒にとって難しいことが多い。一人一人異なるテーマで探究させているため、先生方のアドバイスを与える時間も足りない。	○情報収集の方法（アンケート、インタビュー、観察、フィールドワーク含め）について、課題をどう設定するかなど、大学の先生に分かりやすくお話しして頂く機会を作りたい。 ○大学生や院生にメンターとして生徒の探究に伴走して頂きたい（そのような仕組みを作りたい）。	前原　直子	探究委員主任
						2年	自分の興味・関心、社会の課題解決（個人で決めるテーマ）	4月　マイテーマ探し 5～7月　課題設定 7～9月　情報収集、高校生リング 10～2月　分析・整理、まとめ	連携していない	（リクルートの高校生Ringには参加）					
27	公	南部	普通		ヒ	2年	進路学習、平和学習	4月　総探オリエンテーション 5月　平和講演会 6～7月　平和新聞作成 9月　進路ガイダンス 10月　進路講話 11月　平和ウォークラリー準備 12～1月　3年0学期宣言 2月　卒業式に向けて	連携していない		○進路についての知識技能の修得 ○情報を収集、整理、分析する能力 ○他者と協働する態度	○計画、準備、実施に要する時間（他の業務もあり、総探に時間をかけていられi面がある）。		小池　伸彦	2学年主任
28	公	那覇	実業	○	フ	2年								長内　聡	2学年主任
29	公	中部	普通		ヘ	1年	興味関心型探究	4月　SNSについて 5月　総探の時間についてガイダンス 6～7月　平和学習 9月　自身の京美・関心を知る 10月　問い・仮説の立案 11～12月　情報の収集、整理 1月　ポスター作成、発表	連携していない		生徒が、探究活動のサイクル（課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）を１周回は進めることを経験する。	生徒自身で探究のテーマを設定すること。	生徒のテーマ設定によっては、専門的な知識が必要になると予想しています。生徒自身で気軽に大学の先生や先輩に質問できると、生徒が探究の時間に自主性を持って取り組むことを進められるのではと思っています。	阿嘉　博之	教務（時間割係、総合的な探究の時間）

30	公	中部	普通		ホ	1年	職業を知る	4月　オリエンテーション、文理選択適性検査 5月　適性検査の振り返り 6月　キラ星祭企画書の作成、総探の時間とは？ 7月　キャリアパスポート記入 8月　各自で取り組む 9月　キラ星祭、探究学習 10月　キャリア学習 10～11月　小論文 12月　小論文模試 1月　キャリアパスポート記入、小論文模試振り返り 2月　キャリア学習、探究活動 3月　キャリアパスポート記入	連携していない		自分で課題を探し、それの解決に向けて「仮説」を立ててのぞむ事ができる。	探究活動だけを行う事ができない。どうしても学校行事の企画、小論文が入ってきて探究活動のペースがつかめない。	特になし	阿波連　仁	教諭　総合的な探究の時間他担当（進路部）
						2年	自己を知る	4月　オリエンテーション、進路検査 5～6月　探究学習 7月　4月進路検査振り返り 8月　各自で取り組む 9月　キラ星祭、小論文模試に向けtえ 10月　小論模試 10～11月　探究学習 12～1月　探究活動 2月　発表 3月　キャリアパスポート記入	連携していない						
31	公	那覇	実業	○	マ	2年			連携していない		資格取得、キャリア教育の育成	外部機関との連携	連携による学習	上里　勝紀	会計科主任
32	公	北部	実業	○	ミ									岸本　拓馬	教務部
33	公	南部	普通		ム	2年	探究活動を通して主体性と傾聴力の育成に努める	4月　自己探求に関する内容 5月　科目選択に関する内容 6月　知高綱がるプロジェクトの取組① 7月　親睦運動会に関する活動、1学期のまとめ 9月　知高祭に関する活動 10～12月　知高綱がるプロジェクトの取組 12月　2学期のまとめ 1～3月　進路に関する取組	連携している		1学年で身につけた探究活動の基礎技術を深め、社会とつながり、自己の生き方在り方を探り、生き方や職業について考えることができるようになること。	個人又はグループでの探究活動を通して、一人ひとりが主体性を持ち、課題発見・解決能力、表現力を身につけることが更に必要であると感じる。	学問探究を行う際に、大学の先生の出前講座などがあれば、生徒に学問探究に対する意識を更に持たせることができるのではないかと考える。	玉那覇　基枝	教務部（総合探究・キャリア教育担当）
34	公	中部	実業	○	メ										教頭
35	公	那覇	普通		モ	2年	自己理解、社会理解を深めると同時に、自らの進路、適正を踏まえ、他者とよりよく協働しながら、社会課題とその解決を図る探究の実施	4月　キャリアパスポート、マインドマップ 5月　進路探究、本研究テーマ設定 6月　本研究、先行研究調べ 7月　進路ガイダンス、キャリアパスポート 9月　本研究　計画・調査 10月　本研究　中華発表準備・発表会 11～12月　本研究　発表準備 12月　本研究　まとめ 1月　本研究　クラス内発表 2月　探究発表会、キャリアパスポート			○身のまわりにある事象から様々な社会課題を見いだす能力の育成 ○他者とよりよく協働する	「社会の課題」と「自己の将来」を結びつける「見通す力」の育成に総探の時間だけ	総合型選抜等、入学試験に活	大城　正嗣	2学年主任

[illegible]	公	[illegible]	[illegible]		[illegible]	1年	自己理解、社会理解を深め、自らの適性を考え、探究の基礎を身につけ実践する。	4月　総合探究オリエンテーション、キャリアパスポート 5月　進路探究 6月　職業探究 7月　職業ガイダンス、キャリアパスポート 9月　職業探究 10月　職業探究　テーマ検討会 11月　マナー講習会 12月　職業探究発表準備、キャリアパスポート 1月　職業探究発表会 2月　2年探究発表会、キャリアパスポート	連携している		[illegible]力、及び情報収集力の育成 ○情報を蓄積分析し、答え、解決を見いだす力の育成	[illegible]では十分ではなく、すべての教科での指導が必要になる。	[illegible]かしてほしい。		1学年主任
36	公	中部	普通		ヤ	1年	「地域の魅力を発見し、発信する」を目的に、地域の広報誌作成を行う	6月　探究オリエンテーション 7月　SDGｓすごろく、新聞ワーク 9月　バスツアー、広報誌グループ作り 10月　クラス企画会議、取材計画 11月　取材計画、実施 12月　記事作成 1月　記事作成、提出 2月　地域課題について考える 3月　まとめ	連携している		総探の活動を通して仲間とつながる、教師のみならず地域の人とつながるなど「つながる力（コミュ力、SNS、行動力）」を身につけると同時に、教科の学びと総探をつなげる、総探の学びを進路につなげるなどの「つなげる力」を身につけて欲しい。そして、よりよい社会を実現しようとする態度の育成を目指す。	課題の設定、仮説の立て方、検証方法がちぐはぐとなっている場合が多い、地域と連携することに重きを置いているが、地域の人的・物的資源の発掘と確保が難しい。	社会課題に対する背景知識が乏しい生徒が多いので、出前講座などで課題設定に関する高校生向けの講座をして頂きたい。またデザイン発表や中間発表などでフィードバックを与えていただいたらありがたい。	川平　さよ子	総探、教育課程
						2年	地域連携型PBLに基づいた「よかたん」に取り組む	6月　探究オリエンテーション 7月　SDGｓ新聞ワーク、バスツアー 9月　探究課題（計画書作成） 10月　マダンラート、デザイン発表 11月　探究計画書、再提出、情報収集 12月　情報収集、先行研究レビュー 1月　中間発表 2月　ポスターセッション 3月　まとめ	連携している						

37	公	中部	普通		ユ	1年	○自己理解　○自分と社会を知る活動を通して社会との関わり方から進路を考える	4月　進路適性検査、キャリアパスポート 5月　探究ワーク（ロボットに奪われない力）、進路講演会 6月　探究ワーク（話し合い、発表）、進路探究（進路に合わせた科目選択） 7月　校内進路ガイダンス、キャリアパスポート 9月　キャリアパスポート（学期の見通し）、探究ワーク（新しい仕事の作り方） 10月　探究ワーク（話し合い、発表）、進路講演会 11月　キャリアパスポート（行事のふり返り）、探究ワーク 12月　探究ワーク（可能性の広げ方）、キャリアパスポート（学期のふり返り） 1月　進路探究（小論文）、探究ワーク（話し合い、発表） 2月　探究ワーク（話し合い、発表） 3月　卒業生による進路講話、キャリアパスポート（1年のふり返り）	連携していない		学習活動とともに部活動や生徒会活動などに積極的にチャレンジし、「公共に志」を高くたて、その実現のために努力する生徒の育成	本校は「エナジード」という教材を使用して探究ワークを行っているが、教材研究する時間が持てず、教師によって、指導力や熱意に差があり、清tの学習内容にも差が生じている。	「総合的な探究の時間」の意義や、大学が求める探究の形態や内容等を学べる研修や、オンデマンドで学べる教材の提供していただきた（教員向け）。	山田　美香	教務
38	公	中部	普通		ヨ	1年	（1）西原高校の生徒としての自覚を持ち、規律正しい行動と他者と協働する精神を培う。 （2）自己の適正と職業理解を深め、自己実現と進路選択に備える。 （3）身の回りや社会における課題について調べ、自分の考えを論理的に表現する力を養う。	4月　進路のしおり 5月　総探オリエンテーション、進路講演会に向けて 6月　基礎修得期（アクティビティ） 6～7月　職業理解ワークショップ 7月　職業人講話 9月　基礎修得期（アクティビティ） 10月　職業人講話 11月　進路ガイダンス 12～1月　基礎修得期（アクティビティ） 2月　3年生による進路講話、総探のまmとめ 2～3月　2年生に向け	連携している	グッジョブ沖縄	本校は、3年間を連続した取り組みとし、生徒の進路実現を目指している。将来的には、自分事の課題を解決できる人材になることを期待している。昨年度から作り始めたプログラムなので、成果に関してはまだはっきりと言えない。	○職員の意思統一を図るための職員研修がなかなか実施できない。 ○学年を通して教育課程や時間割の調整が難しい（例、1年生だけ2時間連続などが難しい）。 ○進路指導部、各学年部、外部機関、教務との調整等が煩雑である。	観点別評価の導入や、ギガスｋルール構想の中で、高校教育のあり方が大きく変容してきている。大学入学に関してはアドミッションポリシーが公開され、求められる生徒像がはっきりして来ている。その中で、生徒は大学で何をやっているのかよく分かっていない。現在、高大連携において、大学の講座を生徒が受講できる制度があるので、「総合的な探究の時間」と連動させ、大学との関りを深めようと活動しているところである。琉大や沖国、きり学などが実施している公開講座や出前講座が、総合的な探究の時間でも活用できることをアピールしてほしい。また、大学入試の専門性を高めること	仲里　健	教諭　教務部（総合的な探究の時間、高大連携担当）
						2年	（1）職業理解を通して、自ら課題を見つけ、主体的に判断し解決する能力を養い、自己実現の具体化を図る。 （2）身の回りや社会における課題について調べ、自分の考えを論理的に表現する力を養う。	4月　総探オリエンテーション 5月　進路のしおり、課題探究発表会、進路講演会に向けて 6月　進路研究 7月　進路ガイダンス＋進路探究、進路研究 9～12月　テーマ探究（SDGs等） 1月　レポート作成 2月　3年による進路講話、総探のまとめ 2～3月　進路研究	連携している	沖縄キリスト教学院大学・短期大学					

						3年	（1）自ら課題を見つけ、主体的に学び、考え、判断し、解決する能力を育てる。 （2）段階的な進路学習を通して、自己を理解し、希望進路の実現を目指す。 （3）身の回りや社会における課題について調べ、自分の考えを論理的に表現する力を養う。	4月　総探オリエンテーション 5月　課題研究発表会、進路講演会に向けて 6月　志願理由書、入試制度説明 7月　面接の受け方、進路探究 9～12月　進路探究 12～1月　卒業講話	連携していない				にも繋がるように、高校への指導と連携を深めて欲しい。		
39	公	中部	実業	○	ラ									照屋　茜	教諭